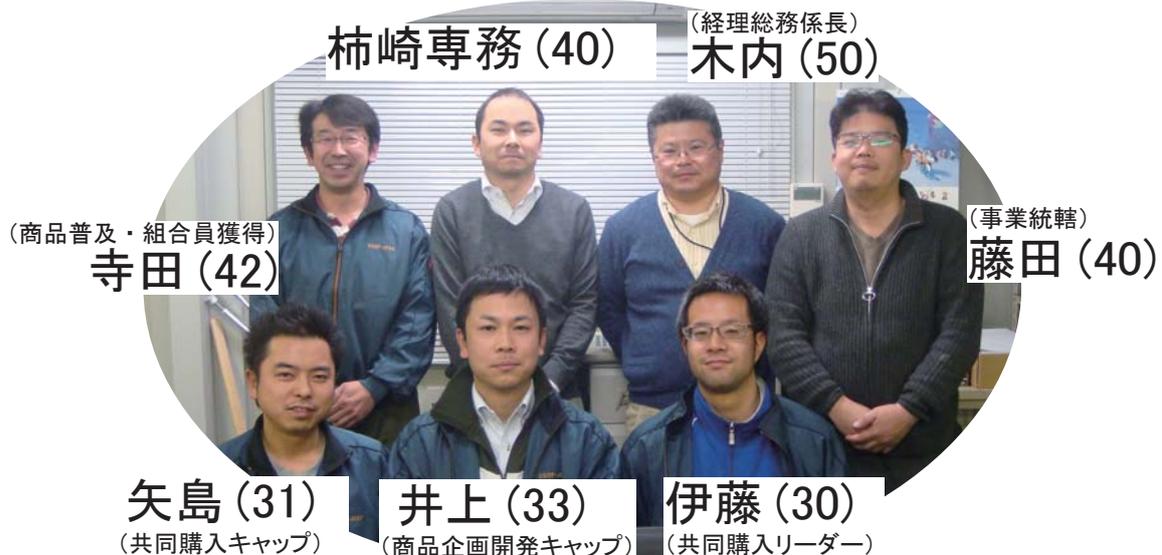


【ものづくり 人づくり 地域づくり】 2013 年度職員体制

職員世代交代。常総生協の次の10年を担う 職員体制、若手中心に 第三世代体制 がスタートしました！



頑張ります！ご指導よろしくお願いたします。

柿崎新専務になって半年、1/23 新しい業務責任体制が発表されました。

専務理事はじめ事業統括、商品普及担当が40代、その下に30代前半の若手を据えて、後方に經理総務を司る先輩。いよいよ常総生協の今後10数年を担う職員体制がスタートします。常総生協も今年で創立38年。2008年から準備を開始した「第三世代への世代交代」がようやく始動です。

新しい体制として商品の利用や経済的な活用を地域巡回して普及する特別担当として寺田。新しい時代の双方向コミュニケーションを具体化するためのシステム開発担当に筒井(29)を、生きた素材の栄養的価値を伝えるために放射能検査室から拡張された品質管理室に横関(32)を配置。職員を生産現場に研修に行かせる教育研修のためのサポート体制も整えます。

食の安全と地域のつながりを大切にする常総生協の伝統を継承しながらも、新しい時代(成熟と安定)に対応した消費者・生産者事業を元気に、そして誠実に進めてゆくための体制となりました。今週は、組合事業を推進する幹部たちに決意を語ってもらいました。

【職員新体制】

2013年度 業務スタートにあたって（幹部所信表明）

専務理事 柿崎洋



昨年の総代会で専務理事となり半年が過ぎました。この間、秋の地区懇談会開催会場9か所80人の総代と組合員みなさんにお会いして、常総生協の状況と今後やっていきたいことを説明して回りました。利用が伸び悩んでいることを皆さんに報告したところ、「では、私たちの地区では、生協商品を使って料理した一品料理をみんなで持ち寄り、試食交流会をしましょう」と、「持ち寄りパーティー」を開催。ちらしをポスティングしますといえ、ば、「近所なので手伝いますよ」と。これほど素晴らしい組合員組織に支えられた生協は他にはないと感じます。こうした「心意気」にこたえるべく、職員はもっと勉強し、現場の生産者に学び、家族の健康を預かる組合員に情報を提供していかなければなりません。

「健康で経済的な生活」を具体的に提案し、組合員と生産者を結ぶこと、組合員どうしをつなぐことはまだまだ力不足です。ぜひ私以下、職員を鍛えてください。そして、東北、福島を忘れない活動、「ものづくり、人づくり、地域づくり」をぜひ一緒に実践して行きましょう。

藤田健 事業統括（課長）

私の役割は生協内における供給部、組織部、商品部、各部をつなぐことだと認識しています。

私自身、常総生協に入協して供給部で5年、商品部で4年過ごしてきて、供給部時代は商品部を知らなくて情けない思いをしたことや商品部では情報を伝えきれないもどかしさを経験しました。

各部の職員が現状の業務に取り組む中で、不足しているところを補い、円滑に取り組めるようにし、事業業績回復に貢献します。

自分が感じたように「美味しいものを食べた幸せ」「食べ物から健康になる喜び」「手作りの出来た時の感動」など常総生協でしか味わえないことを皆に知ってもらいたいです。

生協の良いところは目の前に組合員がいるということ。私たちの発信に良くも悪くも反応してくれます。組合員、生産者と一緒に「大変」を大きく変わるチャンスととらえて骨太の職員集団を作っていきます。まずは自分に厳しく業務に取り組んでいきます。



木内和彦 経理総務（係長）

今年度 大変厳しい経営状況の中、経理として、現状経営状況の職員への周知の遅れ、また、要因の分析、今後の対策の発信が出来なかった自分の力不足を痛感しています。

また、幹部の中での真剣な討議の場を持たなかった事を反省し、自己の課題と取り組みます。

今、2013年度向けに幹部の若返り（自分以外は）を計り、スタートを切りました。個々の能力が思う存分発揮できる職場の風土、教育・学習する場の提供が総務としての課題とされています。

また、職場の秩序を保つことも職務として取り組んでいきます。

累積欠損解消を目指し、努力してきた諸先輩方の考えと実践を継承しつつ、新しい感性を取り入れた自立し、共助し合える職員集団の構築に力を注いでいきます。



寺田司 商品普及、組合員拡大（係長）

新しい体制になり自分の責任と役割が明確になりました。

再度、常総生協らしさを考え「健康で経済的な暮らし」「食生活指針」を実践しながら、積極的に新しい事にチャレンジしていきます。

現在の一人当たりの利用高や新規加入者が増えていかないのは、常総生協の商品を伝えきれていない事が原因だと感じています。こんなにも魅力的な商品ばかりなのに生産者の思いやこだわり、産地の様子などを伝えていく力が弱く、利用や新規加入が伸びていかないのは私達の責任です。なぜ常総生協がこの商品を食べてもらいたいのかを明確に伝える為に、私が率先して組合員さんのご家庭や地域に、楽しく！おいしく！商品を知ってもらう為にお伺いしていきます。そして、その伝える事の知識、技術を身に付ける為の勉強もしていきます。

先輩の役職員、組合員さんが作ってくれたこの常総生協を私達も次の世代に自信をもってバトンタッチできるように、このメンバーで本気でぶつかり合いながら常総生協のリーダーシップを取っていきます。厳しい時期だからこそ、食を通じて組合員さんの健康と役職員、生産者の生活を全力で守っていきます。



井上元 商品企画開発（主任）



商品部リーダーを任されました井上元と申します。

2年間供給部で配送業務に就きその後商品部へ。今年で商品部6年目になります。今まで培ってきた様々な経験や人とのつながりを生かして以下の3つの目標を立てて頑張ります。

1つ目は私達が生活している地域・人が元気（健康）になる事に取り組みます。2つ目は皆がおもしろい・楽しいと感じる提案をします。3つ目は皆にとって有効な情報をしっかりと伝えていきます。

この3つの目標はどれも常総生協が今まで行なってきたことですが、改めてより具体的に、更に発展させた形で取り組んでいければと思っております。

更に、事務局からの提案だけでなく、実際に利用する立場の組合員からの提案・要望も最大限実現できるような仕組みを作り、より利用しやすい商品作りに取り組みたいと思います。

それぞれがそれぞれの事を思い、助け合い、意見し合える関係作りにも、積極的に取り組み、常総生協に集うみんなでこの厳しい状況乗り越えていきたいと考えています。

まだまだ力不足のところもあるかと思いますが、生産者・組合員・職員みんなの力を借りて、元気よく、常総生協のために努めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いします。

矢島裕也 共同購入キャップ（主任）



責任ある立場を任された以上、供給メンバーをしっかりと引っ張っていきけるよう努めたいと思います。全体を見渡し、共同購入部に足りなかったことを一つ一つ埋めていきたいです。

私個人の能力は決して高くありませんが、周りのみんなが私より優れている部分は沢山あります。みんなの良いところを伸ばして、全員で協力、助け合いながらならきっと良い結果が生まれると思います！

職員、並びに組合員の皆さま方、今後ともよろしくお願いします！

伊藤博久 共同購入リーダー（主任）



共同購入部の伊藤博久です。この度、共同購入部のリーダーをやらせていただくことになりました。地域に安心、安全そして、元気を届けられる様に、まずは、自分自身が先頭に立って声を出して仲間の職員、組合員を盛り上げていこうと思います。厳しい経営状況ではありますが、下を向いても良いことはないですし、この先10年、20年、30年・・・と生協が地域にあり続けるためにも、元気で明るい、組合員の台所を彩る供給職員が、いる生協を目指して頑張ります。まだ、まだ未熟者ではありますが先輩の職員、組合員さんの力を借りながら1歩づつ進んでいこうと思います。宜しくお願いします。

【1/19 対談「東葛から問う」放射能対策と原発の明日】小出 vs 小林

1600名の熱気の中で「生き方・考え方」を問われる放射能と原発

1/19 柏市民会館にて、京大原子炉実験所の小出裕章氏と、日本原子力研究開発機構量子ビーム応用研究主席の小林泰彦氏の講演と対談『放射能対策と原発の明日』が開催されました。

この講演会は、昨年来、千葉東葛地域の土壌汚染調査を共におこない、「原発事故子ども・被災者支援法」にもとづいて関東地区も指定区域にして子どもたちの健康調査を求め続けているみなさんが実行委員会を結成して開催されたものです。しかも、講演を依頼した小出裕章氏から「原子力を推進している人との対談に」との希望から、対談が実現しました。

講演と対談では、「被ばくという危害と自らの加害責任」、「リスクと社会的利便」という、科学技術と被害と社会のありようをどう考えるかによって、まったく違う結論となることを明瞭に示しました。

「子どもは放射線感受性が高い。子どもに原子力を選んだ責任はない。何より子どもの安全を考えること」とする小出氏に対し、「100mSvで生涯がん死亡リスク

はわずか0.5%上乗せに過ぎない」「リスクの定量と比較でリスク総和の最小化を」という小林氏の言説を前に、1600席を埋め尽くした福島県の避難民を含む東葛地域の被ばくを受けた生身の住民が何を感じ、何を確信したか、人間にとっての科学と技術の意味合いを考えさせられるよい機会となりました。

講演要旨は別途報告いたします。

小出さんのスライドには東葛エリアで生協と市民が協同で測定していった土壌放射能調査も紹介されました。



会場では、生協職員が千葉の組合員と

いっしょに『チェルノブイリ健康影響翻訳本』を紹介し、85冊も販売できました。

【常総生協子ども健康調査】1/19～20 甲状腺エコー検査・尿検査に先行して、 218名の幼児・児童の血液検査を実施（全体像速報）

1/19～20の2日間で218名の子どもの血液検査を実施しました。

低線量放射線被ばくによる非がん健康影響として①甲状腺機能への影響、②免疫系への影響が挙げられていることから、血液中の甲状腺ホルモンと免疫細胞（白血球）の状態を確かめる目的で、①一般血液検査、②血液像、③甲状腺機能の検査を実施しました。今週は速報として全体像を報告します。

【検査を受けた子どもの数（地域集団）】218名

| 年齢別 | 男 | 女 | 県・市町別 |
|------------|-----|-----|--|
| 乳児(3歳未満) | 19 | 14 | 茨城県 151 千葉県 67 |
| 幼児(3～5歳) | 74 | 37 | |
| 小学生(6～8歳) | 72 | 39 | (茨城) つくば44、守谷34、土浦19、牛久16、石岡・かすみがうら12、つくばみらい10、その他16 |
| 小学生(9～11歳) | 32 | 16 | |
| 中学生(12歳～) | 19 | 12 | |
| 高校生 | 2 | 0 | (千葉) 柏26、我孫子21、流山14、松戸6 |
| 計 | 218 | 118 | 100 |

【検査項目と目的】(1次スクリーニング)

- ①一般血液検査では「白血球の数」に注目します。
- ②血液像では、5種類ある白血球細胞（好中球、リンパ球、単球、好酸球、好塩基球）の割合を見ます。放射線に感受性の高い「リンパ球」の割合に注目しています。あわせてリンパ球に異型がないかどうかを確認します。(B細胞・T細胞CD検査は2次検査)
- ③甲状腺機能が低下していると、脳下垂体から甲状腺刺激ホルモンが多く分泌され血中を通して甲状腺ホルモンを合成するよう身体が指示していることとなります。その血中濃度の様子を見ます。(サイログロブリン検査は2次検査対象)

【結果】

①白血球数は218人の平均で6,950個/マイクロリットルで、標準値内で異常は見られませんでした。子どもの白血球数は通常大人より多めです(下記表)。maxでも15,600で、カゼをひいていたかもしれません。細菌感染していると2万。白血病だと20～30万になります。

子どもの白血球数の標準値と生協の子どもたち

| 年齢 | 白血球数(個/μリットル) | 生協の子どもたち |
|-----|---------------|--|
| 新生児 | 9,000～30,000 | 218名平均6,950 min 3,500 max 15,600 |
| 乳幼児 | 5,000～18,000 | |
| 学童 | 5,000～13,000 | |
| 成人 | 3,500～9,800 | |

②血液像：白血球の中の5種類の細胞（好中球、リンパ球、単球、好酸球、好塩基球）の割合(%)を見ています。生協の子平均は下記で標準値内です。

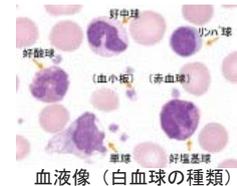
| 好中球 (SEG+STAB) 標準 48-61% | リンパ球 (LYMPHO) 25-45% | 単球 (MONO) 4-7% | 好酸球 (EOSINO) 1-5% | 好塩基球 (BASO) 0-1% |
|--------------------------------|----------------------------|----------------------|-------------------------|------------------------|
| 49% | 42% | 5% | 3% | 0.5% |

チェルノブイリ事故で被ばくした子どもたちは「リンパ球の減少=免疫力低下」が特徴的でした。



江東微生物研・看護師のみなさん。医師は組合員の女医さん協力。左は採血風景

白血球のうち、放射線感受性の高いリンパ球の割合は、標準値が25～45%に対して218人の生協の子どもたち平均で42% (min22%、max32%) でした。



少し「高め寄り」かもしれませんが、免疫細胞（リンパ球）がしっかりあり、「免疫力がある子どもたち」「免疫応答が良い子どもたち」と思ってよいかもしれません。

(発酵食品で免疫力を高めようとお母さん方が家で頑張っている成果でしょうか？余談ですが、福島事故後、千葉の組合員より、同じ幼稚園でなぜか常総生協の組合員の子もだけは元気に走りまわっていて、それを見て私も常総生協に入った、と伺いました)

次に、リンパ球の異型（異常ではありません）の割合を顕微鏡で目で見て数えています。リンパ球の異型はウイルス性のカゼをひいても現れます。今回の検査では218人中37人(17%)の子に異型が見られましたが、異型の割合は多くが1%で、max3%でした。健康人で3%未満とされていますので、範囲内と思います。

③甲状腺刺激ホルモン(TSH)は全平均2.62(μIU/ml)で、標準値0.5～5.0の範囲に入っています(min0.44,max8.75)。標準値5.0を超えた子は6人(3%)ですが、標準をわずかに超えている程度です。

甲状腺ホルモンそのものの方も、甲状腺機能の状態を直接示す指標であるTF4は全員標準値内。より正確に機能を反映するTF3は1名のみわずかに標準値未満、24人(11%)がわずかに標準を超えて甲状腺ホルモンが多いだけでした。甲状腺機能低下 or 亢進は見られません。

【暫定的結論】

プルーム通過による初期吸入内部被ばく、およびホットスポットエリアとなったこの地域で土壌沈着した放射性物質からの日常的な外部被ばくが心配されて、すでに間もなく2年となりますが、2年後の時点での生協の子どもたち218名集団の「血液」での免疫系および甲状腺のマーカーを調べた結果としては、免疫機能及び甲状腺機能に対する異常は見られません。地域別や男女別の特異性も見られませんでした。

但し、専門家ではありませんので、個々人の血液検査の結果を病院に持参して、甲状腺エコー検査とあわせて甲状腺機能について医師の最終診断によって判定してもらいます。

(文責 大石)